

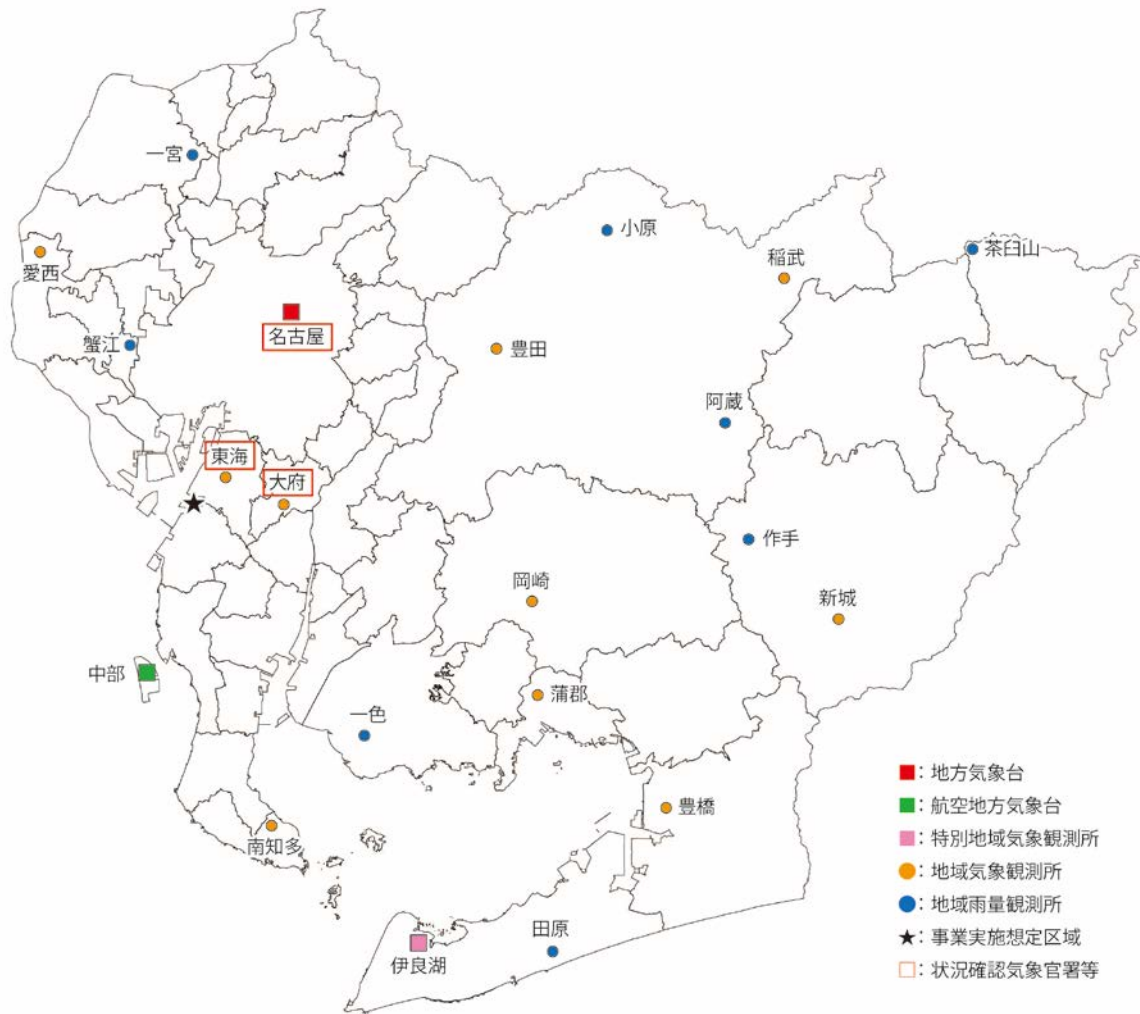
3.2 自然的状況

3.2.1 気象、大気質その他の大気に係る環境の状況

(1) 気象

事業実施想定区域の近辺における気象官署として、名古屋地方気象台（名古屋市千種区日和町）が、地域気象観測所としては、東海地域気象観測所（平成 24 年 10 月 17 日まで観測）、大府地域気象観測所（平成 24 年 10 月 17 日より観測）がある。

愛知県内における、気象観測所の分布を図 3.2.1 に示す。



注：東海地域気象観測所は平成 24 年 10 月 17 日までの観測、大府地域気象観測所は平成 24 年 10 月 17 日からの観測である。

出典：気象庁ホームページ

図 3.2.1 愛知県における気象観測地点

また、気象の調査結果の取りまとめについては、事業実施想定区域の周辺の名古屋地方気象台、東海地域気象観測所及び大府地域気象観測所の 3 地点を対象とした。

ア 気温・降雨量

名古屋地方気象台及び東海地域気象観測所における月別平均気温及び降雨量の平年値を表 3.2.1 及び図 3.2.2 に示す。

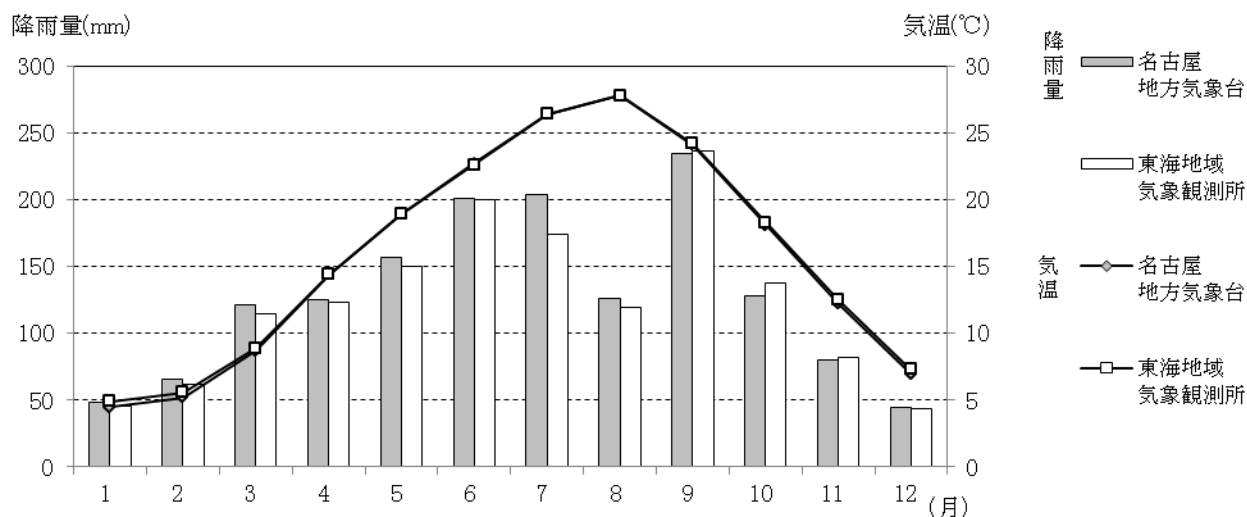
月別平均気温は、いずれも最高が8月の27.8℃、最低が1月の4.5℃～4.9℃となっており、月別降雨量は、いずれも最大が9月の234.4mm～236.7mm、最小が12月の43.2mm～45.0mmであり、年間降雨量は1,489.6mm～1,535.3mmである。

表 3.2.1 気象官署及び地域気象観測所における月別平均気温及び降雨量の平年値

(統計期間 1981～2010 年)

	平均気温 (℃)		降雨量 (mm)	
	名古屋地方気象台	東海地域気象観測所	名古屋地方気象台	東海地域気象観測所
1 月	4.5	4.9	48.4	45.7
2 月	5.2	5.6	65.6	62.0
3 月	8.7	8.9	121.8	114.5
4 月	14.4	14.4	124.8	123.5
5 月	18.9	18.9	156.5	149.9
6 月	22.7	22.6	201.0	200.5
7 月	26.4	26.4	203.6	173.9
8 月	27.8	27.8	126.3	119.7
9 月	24.1	24.2	234.4	236.7
10 月	18.1	18.3	128.3	137.9
11 月	12.2	12.5	79.7	82.2
12 月	7.0	7.3	45.0	43.2
年間	15.8	16.0	1,535.3	1,489.6

出典：気象庁ホームページ



出典：気象庁ホームページ

図 3.2.2 気象官署及び地域気象観測所における月別気温及び降雨量平年値の推移

(統計期間 1981～2010 年)

イ 風向・風速

名古屋地方気象台及び東海地域気象観測所における月別平均風速の平年値及び最多風向を表 3.2.2 に、名古屋地方気象台及び大府地域気象観測所における平成 26 年度の風配図を図 3.2.3 に示す。

平年値をみると、年間最多風向は、名古屋地方気象台では北北西で、東海地域気象観測所では北西となっている。また、平均風速は 1.7m/s～2.9m/s となっている。

平成 26 年度の最多風向は、名古屋地方気象台、大府地域気象観測所ともに北西となっている。

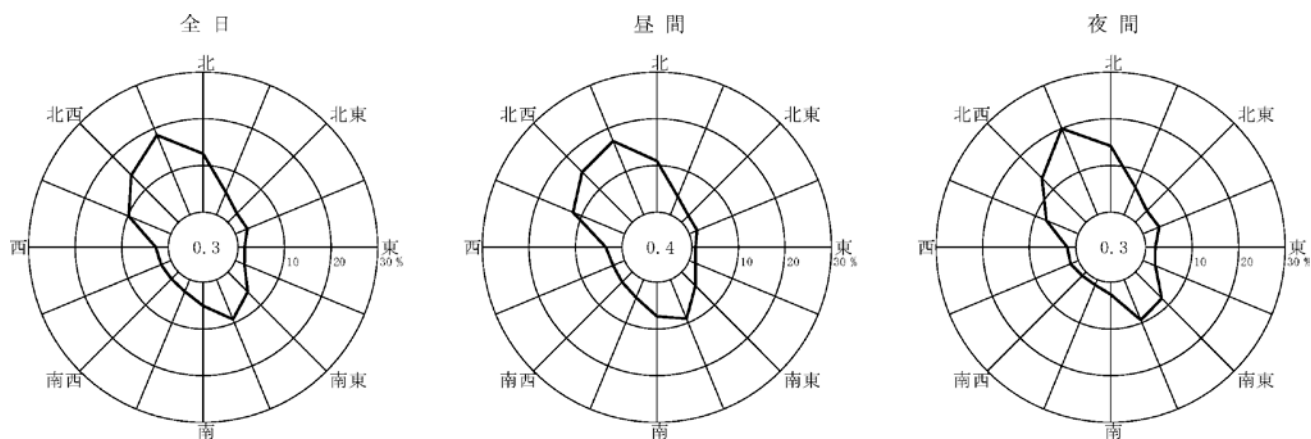
表 3.2.2 気象官署及び地域気象観測所における月別平均風速の平年値及び最多風向

(統計期間 1981～2010 年)

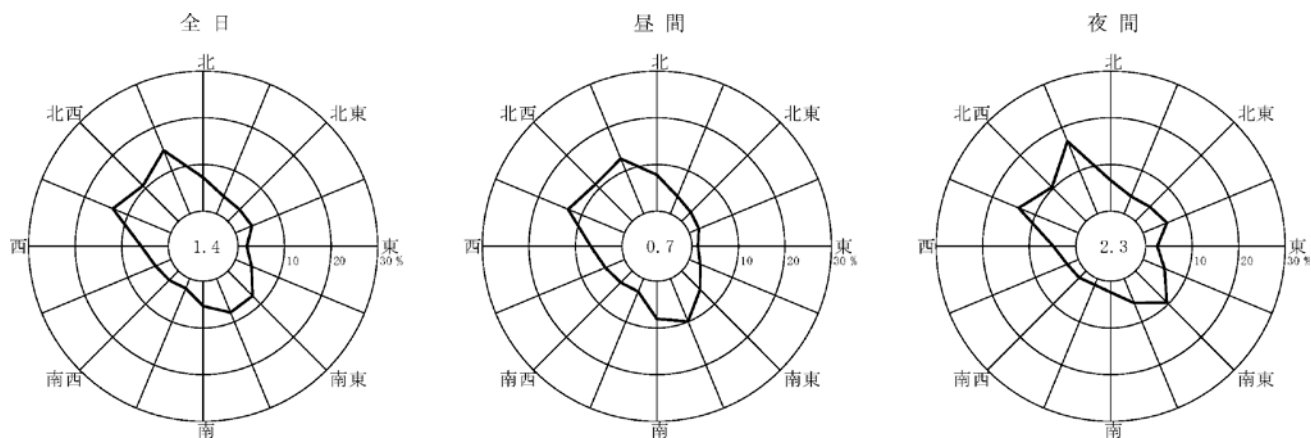
	名古屋地方気象台		東海地域気象観測所	
	平均風速(m/s)	最多風向	平均風速(m/s)	最多風向
1 月	3.1	北北西	2.1	北西
2 月	3.4	北北西	2.4	北西
3 月	3.5	北北西	2.4	北西
4 月	3.3	北北西	2.0	北西
5 月	3.0	北北西	1.6	北西
6 月	2.7	南南東	1.3	南南東
7 月	2.7	南南東	1.3	南東
8 月	2.9	南南東	1.5	南東
9 月	2.7	北北西	1.2	北西
10 月	2.6	北北西	1.2	北西
11 月	2.6	北北西	1.4	北西
12 月	2.8	北北西	1.8	北西
年間	2.9	北北西	1.7	北西

出典：気象庁ホームページ

名古屋地方気象台



大府地域気象観測所



- 注：1. 単位：%、グラフ内一目盛につき 10%となっている。
 2. 円内の数字は静穏率（風速 0.3m/s 未満；%）を示す。
 3. 昼夜間の区分は以下のとおりとする。

月	昼間	夜間	月	昼間	夜間	月	昼間	夜間
1	7～17時	18～6時	5	5～18時	19～4時	9	6～18時	19～5時
2	7～17時	18～6時	6	5～19時	20～4時	10	6～17時	18～5時
3	7～18時	19～6時	7	5～19時	20～4時	11	7～16時	17～6時
4	6～18時	19～5時	8	6～18時	19～5時	12	7～16時	17～6時

出典：気象庁ホームページ

図 3.2.3 気象官署及び地域気象観測所における風配図（統計期間 平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月）

ウ 日射量

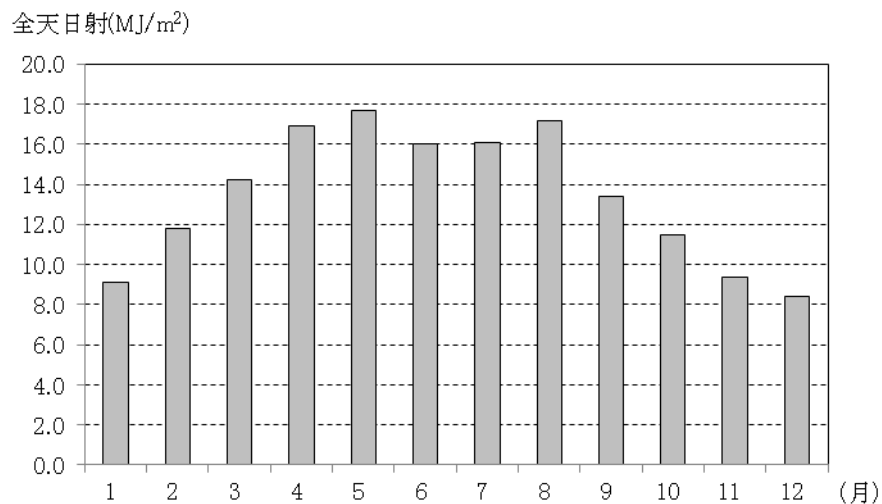
名古屋地方気象台における月別の平均全天日射量の平年値を表 3.2.3 及び図 3.2.4 に示す。

名古屋地方気象台では全天日射量の最大が5月の17.7MJ/m²、最小が12月の8.4MJ/m²となっており、年間平均は13.5MJ/m²である。

表 3.2.3 名古屋地方気象台における月別平均全天日射量の平年値（統計期間 1981～2010 年）

	名古屋地方気象台
	全天日射 (MJ/m ²)
1 月	9.1
2 月	11.8
3 月	14.2
4 月	16.9
5 月	17.7
6 月	16.0
7 月	16.1
8 月	17.2
9 月	13.4
10 月	11.5
11 月	9.4
12 月	8.4
年間	13.5

出典：気象庁ホームページ



出典：気象庁ホームページ

図 3.2.4 名古屋地方気象台における月別平均全天日射量の平年値（統計期間 1981～2010 年）

(2) 大気質

事業実施想定区域周辺の大気汚染の調査地点は、愛知県の測定局として東海市横須賀小学校、各市管理の測定局として、市役所、加木屋小学校（以上東海市管理）、緑町、八幡東及び岡田（以上知多市管理）の計6地点がある。

また、ダイオキシン類の測定地点として、東海市の測定地点が2地点、知多市の測定地点が1地点ある。降下ばいじんの測定地点として、愛知県の測定地点が2地点、東海市の測定地点が4地点、知多市の測定地点が3地点ある。

測定地点ごとの調査項目について表 3.2.4 に、事業実施想定区域周辺における測定地点の位置を図 3.2.5 に示す。

表 3.2.4 測定地点ごとの調査項目

測定地点			局属性	二酸化硫黄	二酸化窒素	一酸化炭素	浮遊粒子状物質	光化学オキシダント	微小粒子状物質	ダイオキシン類	降下ばいじん	調査主体
東海市	1	東海市横須賀小学校	一般局	○	○	—	○	○	○	—	—	愛知県
	2	市役所	一般局	○	○	—	○	○	—	○	—	東海市
	3	加木屋小学校	一般局	○	○	—	○	○	—	—	—	
	4	ソラト太田川	—	—	—	—	—	—	—	—	○	
	5	文化センター	—	—	—	—	—	—	—	○	○	
	6	養父児童館	—	—	—	—	—	—	—	—	○	
	7	横須賀中学校	—	—	—	—	—	—	—	—	○	愛知県
	8	加家公民館	—	—	—	—	—	—	—	—	○	東海市
知多市	9	緑町	一般局	○	○	—	○	○	—	—	○	知多市
	10	八幡東	一般局	○	○	—	○	○	—	○	—	
	11	岡田	一般局	○	○	—	○	○	—	—	○	
	12	八幡公民館	—	—	—	—	—	—	—	—	○	
	13	新知小学校	—	—	—	—	—	—	—	—	○	愛知県

注：1. 降下ばいじんの測定は平成25年度、それ以外の測定は平成26年度の状況である。

2. 「○」は測定している項目、「—」は測定していない項目を示す。

3. 測定地点番号は、図 3.2.5 に対応している。

出典：「平成26年度 大気汚染調査結果」（愛知県）

「ダイオキシン類調査結果」（愛知県ホームページ）

「降下ばいじん調査結果」（愛知県ホームページ）

「平成26年版 東海市の環境概況」（東海市）、東海市資料

「知多市の環境 平成26年版」（知多市）



図 3.2.5 事業実施想定区域周辺における大気環境調査地点

ア 二酸化硫黄 (SO₂)

二酸化硫黄の平成 26 年度の調査結果を表 3.2.5 に、過去 5 年間における経年変化を図 3.2.6 に示す。

表 3.2.5 二酸化硫黄の調査結果（平成 26 年度）

測定地点			有効測定日数	測定時間	年平均値	環境基準との対比				1 時間値の最高値	1 日平均値の 2% 除外値	1 日平均値 0.04ppm を超えた日が 2 日以上連続したことの有無	長期的評価による環境基準の適否
						1 時間値が 0.1ppm を超えた時間数とその割合		1 日平均値が 0.04ppm を超えた日数とその割合					
						時間	%	時間	%				
			日	時間	ppm	時間	%	時間	%	ppm	ppm	有：× 無：○	適：○ 否：×
東海市	1	東海市 横須賀小学校	365	8660	0.002	0	0	0	0	0.024	0.007	○	○
	2	市役所	360	8604	0.002	0	0	0	0	0.025	0.005	○	○
	3	加木屋小学校	359	8599	0.002	0	0	0	0	0.021	0.005	○	○
知多市	9	緑町	363	8642	0.006	0	0	0	0	0.032	0.011	○	○
	10	八幡東	364	8650	0.004	0	0	0	0	0.023	0.008	○	○
	11	岡田	364	8649	0.005	0	0	0	0	0.031	0.012	○	○

注：測定地点番号は、図 3.2.5 に対応している。

出典：「平成 26 年度 大気汚染調査結果」（愛知県）

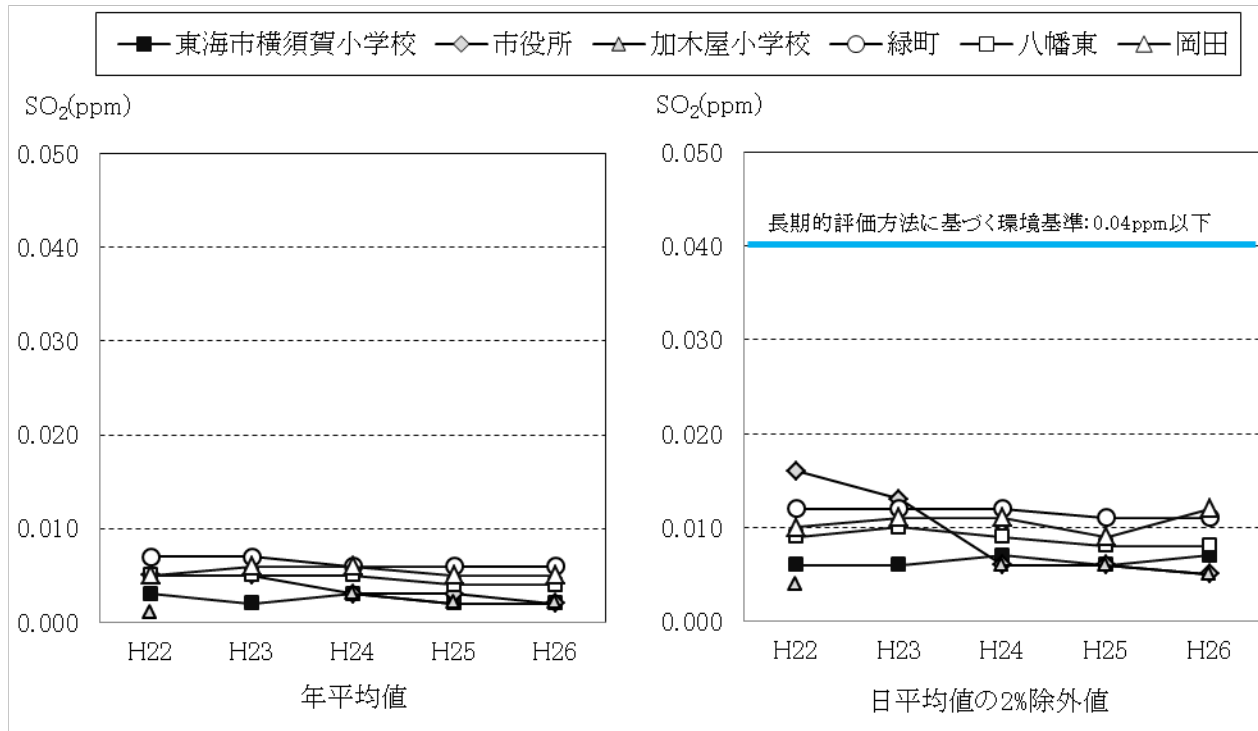
東海市資料

知多市資料

二酸化硫黄の環境基準の長期的評価方法は、「年間にわたる 1 日平均値である測定値につき、測定値の高い方から 2% の範囲内にあるものを除外した値が 0.04ppm 以下であること。ただし、1 日平均値が 0.04ppm を超えた日が 2 日以上連続しないこと。（昭和 48 年 6 月 環境省環大企第 143 号）」とされている。

いずれの地点においても、長期的評価方法に基づく環境基準を達成しており、過去 5 年間についても達成している状況である。

なお、環境基準値は p. 3.3-24 の表 3.3.16 に記載されているとおりである。



注：平成 23 年度の加木屋小学校局は、改築工事のため欠測である。

出典：「平成 22～26 年度 大気汚染調査結果」(愛知県)

「平成 23～26 年版 東海市の環境概況」(東海市)

東海市資料

「知多市の環境 平成 26 年版」(知多市)

知多市資料

図 3.2.6 二酸化硫黄の経年変化

イ 二酸化窒素 (NO₂)

二酸化窒素の平成 26 年度の調査結果を表 3.2.6 に、過去 5 年間における経年変化を図 3.2.7 に示す。

表 3.2.6 二酸化窒素の調査結果（平成 26 年度）

測定地点			有効測定日数	測定時間	年平均値	1 日平均値が 0.06ppm を超えた日数とその割合		1 日平均値が 0.04ppm 以上 0.06ppm 以下の日数とその割合		1 時間値の最高値	1 日平均値の年間 98% 値	長期的評価による環境基準の適否
			日	時間	ppm	日	%	日	%	ppm	ppm	適：○ 否：×
東海市	1	東海市 横須賀小学校	365	8667	0.017	0	0	0	0	0.058	0.033	○
	2	市役所	360	8602	0.015	0	0	0	0	0.057	0.033	○
	3	加木屋小学校	361	8607	0.015	0	0	0	0	0.059	0.034	○
知多市	9	緑町	363	8638	0.016	0	0	5	1.4	0.064	0.038	○
	10	八幡東	362	8626	0.013	0	0	1	0.3	0.056	0.033	○
	11	岡田	364	8649	0.010	0	0	0	0	0.052	0.029	○

注：測定地点番号は、図 3.2.5 に対応している。

出典：「平成 26 年度 大気汚染調査結果」（愛知県）

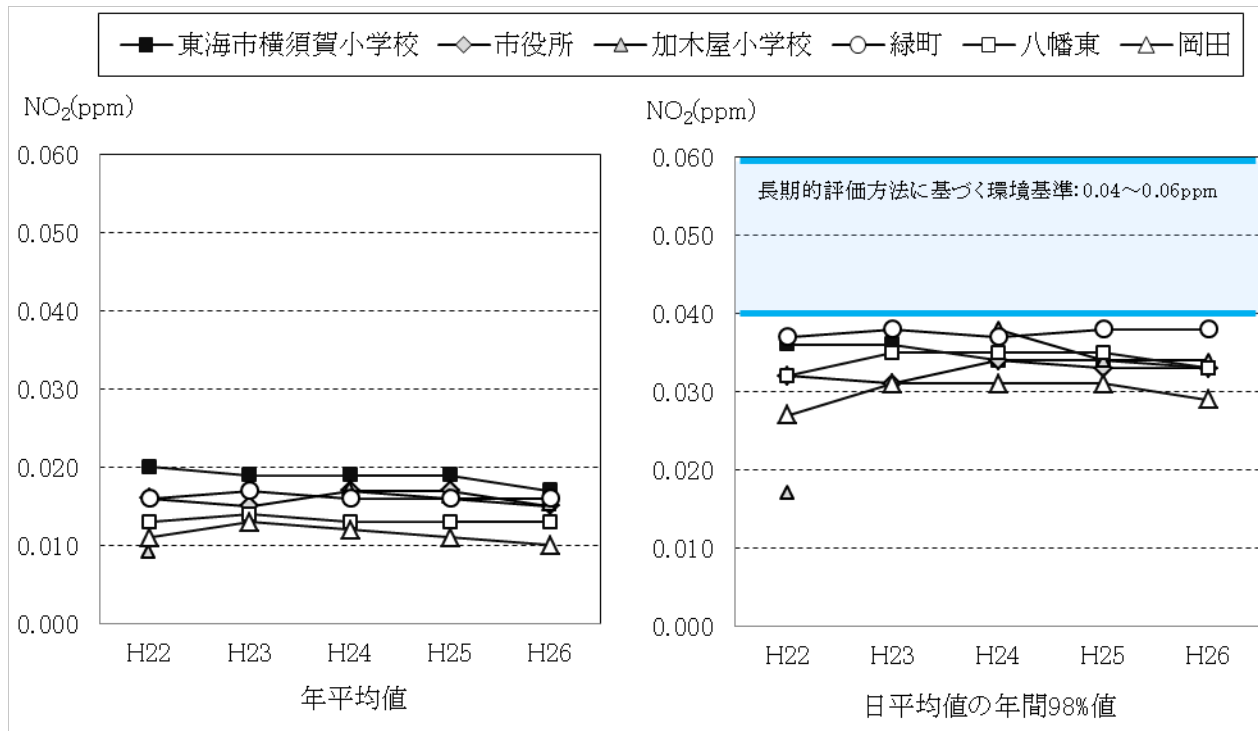
東海市資料

知多市資料

二酸化窒素の環境基準の長期的評価方法は、「年間における二酸化窒素の 1 日平均値のうち、低い方から 98% に相当するものが 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下の場合には環境基準が達成されているものとする（昭和 53 年 7 月 環境省 環大企第 262 号）。」とされている。

いずれの地点においても、長期的評価方法に基づく環境基準を達成しており、過去 5 年間についても達成している状況である。

なお、環境基準値は p. 3.3-24 の表 3.3.16 に記載されているとおりである。



注：平成 23 年度の加木屋小学校局は、改築工事のため欠測である。

出典：「平成 22～26 年度 大気汚染調査結果」（愛知県）

「平成 23～26 年版 東海市の環境概況」（東海市）

東海市資料

「知多市の環境 平成 26 年版」（知多市）

知多市資料

図 3.2.7 二酸化窒素の経年変化

ウ 浮遊粒子状物質（SPM）

浮遊粒子状物質の平成 26 年度の調査結果を表 3.2.7 に、過去 5 年間における経年変化を図 3.2.8 に示す。

表 3.2.7 浮遊粒子状物質の調査結果（平成 26 年度）

測定地点			有効測定日数	測定時間	年平均値	環境基準との対比				1 時間値の最高値	1 日平均値の年間 2% 除外値	1 日平均値が 0.10mg/m³を超えた日が 2 日以上連続したことの有無	長期的評価による環境基準の適否
						1 時間値が 0.20mg/m³を超えた時間数とその割合		1 日平均値が 0.10mg/m³を超えた日数とその割合					
						時間	%	日	%				
			日	時間	mg/m³	時間	%	日	%	mg/m³	mg/m³	有：× 無：○	適：○ 否：×
東海市	1	東海市横須賀小学校	355	8550	0.028	0	0	0	0	0.151	0.065	○	○
	2	市役所	361	8657	0.018	0	0	0	0	0.078	0.043	○	○
	3	加木屋小学校	361	8659	0.022	0	0	0	0	0.090	0.048	○	○
知多市	9	緑町	362	8616	0.020	0	0	0	0	0.113	0.051	○	○
	10	八幡東	358	8539	0.021	0	0	0	0	0.133	0.054	○	○
	11	岡田	363	8625	0.021	0	0	0	0	0.125	0.052	○	○

注：測定地点番号は、図 3.2.5 に対応している。

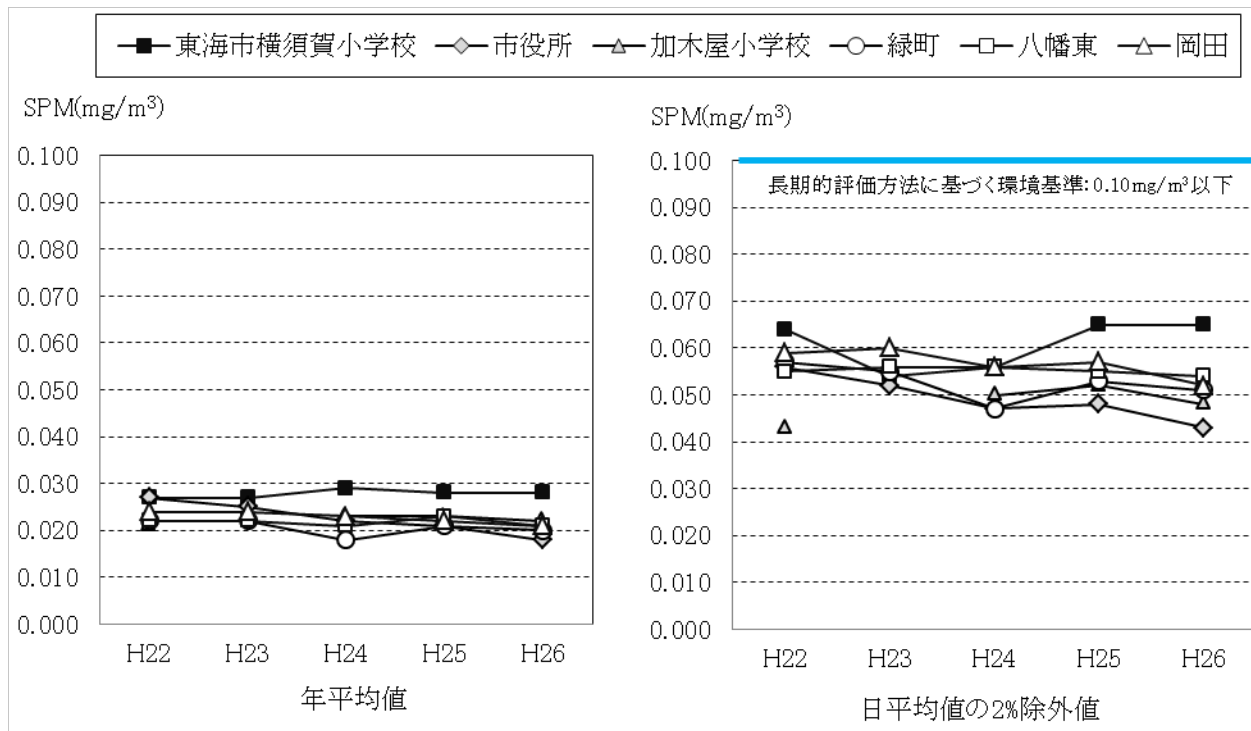
出典：「平成 26 年度 大気汚染調査結果」（愛知県）

東海市資料

知多市資料

浮遊粒子状物質の環境基準の長期的評価方法は、「年間にわたる 1 日平均値である測定値につき、測定値の高い方から 2 % の範囲内にあるものを除外した値が 0.10mg/m³ 以下であること。ただし、1 日平均値が 0.10mg/m³ を超えた日が 2 日以上連続しないこと（昭和 48 年 6 月 環境省環大企第 143 号）。」とされている。

いずれの地点においても、長期的評価方法に基づく環境基準を達成しており、過去 5 年間についても達成している。



注：平成 23 年度の加木屋小学校局は、改築工事のため欠測である。

出典：「平成 22～26 年度 大気汚染調査結果」（愛知県）

「平成 23～26 年版 東海市の環境概況」（東海市）

東海市資料

「知多市の環境 平成 26 年版」（知多市）

知多市資料

図 3.2.8 浮遊粒子状物質の経年変化

エ 光化学オキシダント (Ox)

光化学オキシダントの平成 26 年度の調査結果を表 3.2.8 に、過去 5 年間における経年変化を図 3.2.9 に示す。

表 3.2.8 光化学オキシダントの調査結果（平成 26 年度）

測定地点			昼間測定日数	昼間測定時間	昼間の1時間値の年平均値	環境基準との対比				昼間の1時間値が0.12ppm以上の日数及び時間数とその割合				昼間の1時間値の最高値	環境基準の適否
						昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数及び時間数とその割合									
			日	時間	ppm	時間	%	日	%	時間	%	日	%	ppm	適：○ 否：×
東海市	1	東海市横須賀小学校	365	5411	0.028	398	7.4	93	25.5	0	0	0	0	0.109	×
	2	市役所	363	5398	0.028	302	5.6	71	19.6	0	0	0	0	0.098	×
	3	加木屋小学校	363	5402	0.030	417	7.7	88	24.2	0	0	0	0	0.107	×
知多市	9	緑町	365	5307	0.026	262	4.9	51	1.4	0	0	0	0	0.104	×
	10	八幡東	365	5357	0.026	81	1.5	24	6.6	0	0	0	0	0.078	×
	11	岡田	365	5336	0.026	96	1.8	29	7.9	0	0	0	0	0.082	×

注：測定地点番号は、図 3.2.5 に対応している。

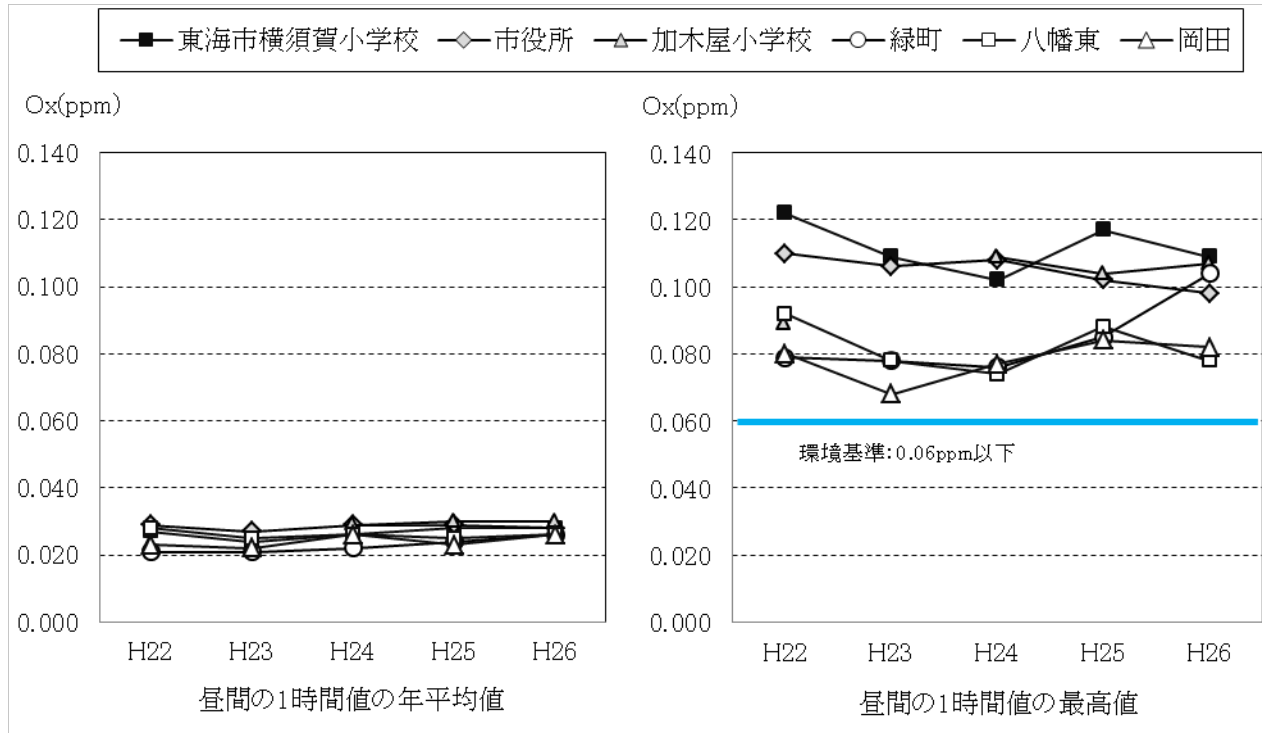
出典：「平成 26 年度 大気汚染調査結果」（愛知県）

東海市資料

知多市資料

光化学オキシダントの環境基準の評価方法は、「年間を通じて、1 時間値が 0.06ppm 以下であること。ただし、5 時から 20 時の昼間時間帯について評価する（昭和 48 年 6 月 環境省 環大企第 143 号）。」とされている。

いずれの地点においても、環境基準が非達成の状況となっており、過去 5 年間についても非達成の状況である。なお、これは当該地域特有の傾向ではなく、全国的な傾向である。



注：平成 23 年度の加木屋小学校局は、改築工事のため欠測である。

出典：「平成 22～26 年度 大気汚染調査結果」(愛知県)

「平成 23～26 年版 東海市の環境概況」(東海市)

東海市資料

「知多市の環境 平成 26 年版」(知多市)

知多市資料

図 3.2.9 光化学オキシダントの経年変化

オ 微小粒子状物質（PM2.5）

微小粒子状物質の平成 26 年度の調査結果を表 3.2.9 に、過去 2 年間ににおける経年変化を図 3.2.10 に示す。

表 3.2.9 微小粒子状物質の調査結果（平成 26 年度）

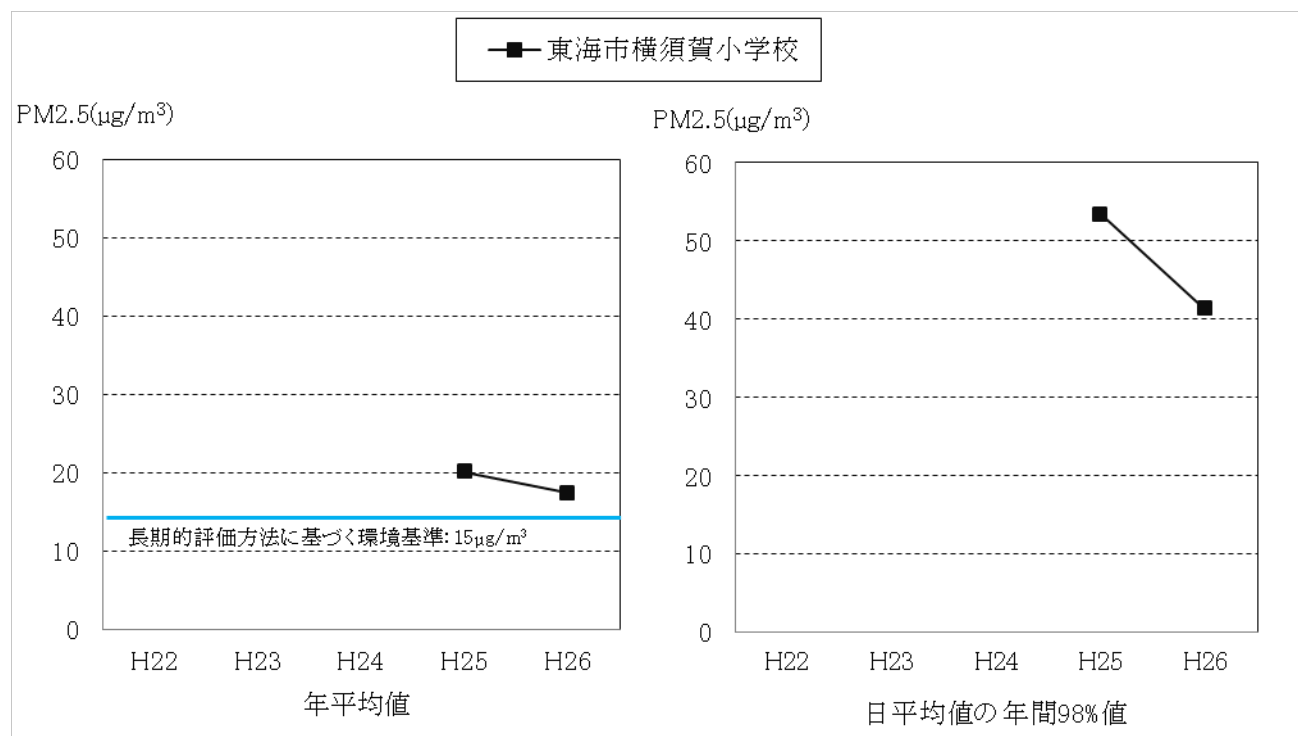
測定地点			有効 測定 日数	環境基準との対比			短期基準に よる 環境基準の 適否	長期基準に よる 環境基準の 適否	
				1 日平均値が 35µg/m³ を超えた日数と その割合		1 日平均値の 年間 98 パーセン タイル値			年平均值
			日	日	%	µg/m³	µg/m³	適：○ 否：×	適：○ 否：×
東海市	1	東海市 横須賀小学校	361	11	3.0	41.3	17.4	×	×

注：測定地点番号は、図 3.2.5 に対応している。

出典：「平成 26 年度 大気汚染調査結果」（愛知県）

微小粒子状物質の環境基準の評価方法は、「1 年平均值及び日平均値のうち 98 パーセンタイル値で評価する（平成 21 年 9 月 環水大総発第 090909001 号）。」とされている。

東海市横須賀小学校局では、環境基準が非達成の状況となっており、過去 2 年間についても非達成の状況である。



出典：「平成 25～26 年度 大気汚染調査結果」（愛知県）

図 3.2.10 微小粒子状物質の経年変化

カ ダイオキシン類

ダイオキシン類の平成 26 年度の調査結果を表 3.2.10 に、過去 5 年間における経年変化を図 3.2.11 に示す。

表 3.2.10 ダイオキシン類の調査結果 (平成 26 年度)

測定地点			調査結果 (pg-TEQ/m ³)					環境基準の 適否	調査機関
			春季	夏季	秋季	冬季	平均値		
東海市	2	市役所	0.017	0.010	0.023	0.044	0.024	○	東海市
	5	文化センター	0.080	0.011	0.041	0.057	0.047	○	東海市
知多市	10	八幡東	0.023	0.012	0.027	0.063	0.031	○	知多市

調査時期：(春季) 平成 26 年 5 月 14 日～5 月 21 日、(夏季) 平成 26 年 7 月 30 日～8 月 6 日

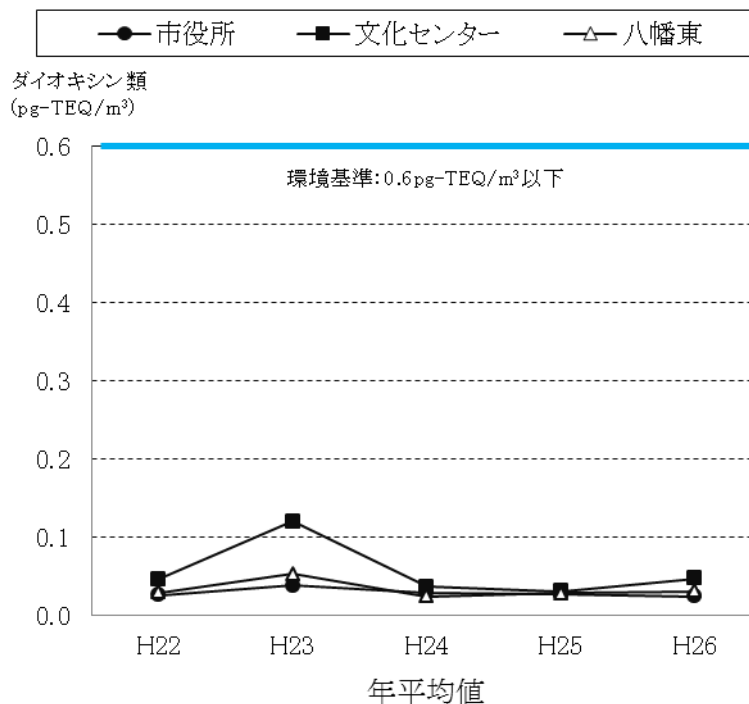
(秋季) 平成 26 年 10 月 15 日～10 月 22 日、(冬季) 平成 27 年 1 月 21 日～1 月 28 日

注：測定地点番号は、図 3.2.5 に対応している。

出典：「ダイオキシン類調査結果」(愛知県ホームページ)

ダイオキシン類の環境基準は、1 年平均値が 0.6pg-TEQ/m³ 以下であることとされている。

いずれの地点においても、環境基準を達成しており、過去 5 年間についても達成している状況である。



出典：「ダイオキシン類調査結果」(愛知県ホームページ)

図 3.2.11 ダイオキシン類年平均値の経年変化

キ 降下ばいじん

降下ばいじんの平成 26 年度の調査結果を表 3.2.11 に、過去 5 年間における経年変化を図 3.2.12 に示す。

表 3.2.11 (1) 降下ばいじんの調査結果（平成 26 年度・愛知県実施）

測定地点			年平均値
			(t/km ² ・月)
東海市	7	横須賀中学校	4.37
知多市	13	新知小学校	2.81
愛知県平均値			2.33

注：測定地点番号は、図 3.2.5 に対応している。

出典：「降下ばいじん調査結果」（愛知県ホームページ）

表 3.2.11 (2) 降下ばいじんの調査結果（平成 26 年度・市実施）

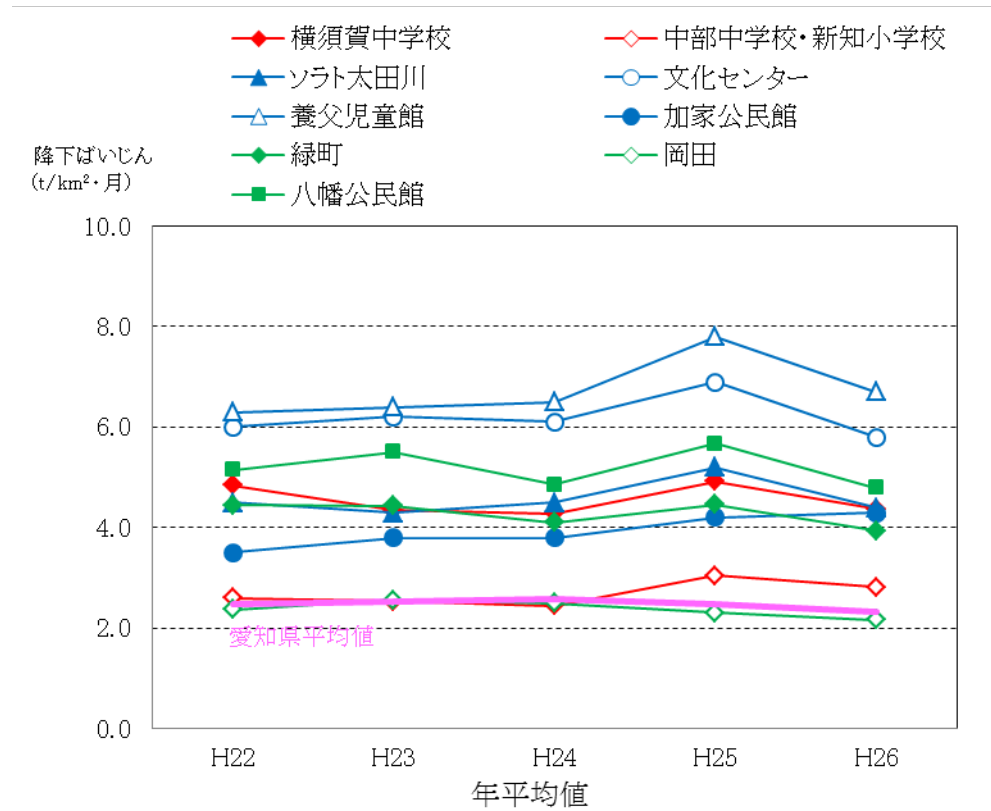
測定地点			年平均値
			(t/km ² ・月)
東海市	4	ソラト太田川	4.4
	5	文化センター	5.8
	6	養父児童館	6.7
	8	加家公民館	4.3
知多市	9	緑町	3.94
	11	岡田	2.16
	12	八幡公民館	4.79

注：測定地点番号は、図 3.2.5 に対応している。

出典：東海市資料
知多市資料

降下ばいじんについての環境基準は設定されていない。

当該地域と愛知県平均値とを比較してみると、岡田を除いて高い値となっており、過去 5 年間ではいずれの地点においても概ね横ばい傾向となっている。



注：中部中学校は校舎工事のため平成 24 年度までであり、平成 25 年度から新知小学校で調査している。

出典：「降下ばいじん調査結果」（愛知県ホームページ）

東海市資料

知多市資料

図 3.2.12 降下ばいじん年平均値の経年変化

3.2.2 騒音に係る環境の状況

(1) 環境騒音

事業実施想定区域周辺で行われている環境騒音の調査結果を表 3.2.12 に示す。また、調査地点の位置を図 3.2.13 に示す。

環境騒音の調査は、東海市及び知多市で行われており、東海市市役所の夜間を除いて、環境基準を達成している。

表 3.2.12 環境騒音調査結果（平成 26 年度）

調査地点		用途地域	類型	時間帯	騒音レベル (dB)	環境基準値 (dB)	環境基準 の適否 適：○否：×
東海市	1	市役所	B	昼間	53	55	○
				夜間	46	45	×
	2	文化センター	C	昼間	56	60	○
				夜間	45	50	○
	3	中ノ池敬老の家	A	昼間	51	55	○
				夜間	40	45	○
知多市	4	岡田	A	昼間	48	55	○
				夜間	41	45	○

注：1. 昼間：6 時～22 時、夜間：22 時～翌 6 時

2. 調査地点番号は、図 3.2.13 に対応している。

出典：東海市資料

知多市資料



図 3.2.13 事業実施想定区域周辺における騒音・振動調査地点

(2) 道路交通騒音

ア 道路に面する地域の環境基準

事業実施想定区域周辺における、平成 26 年度の道路交通騒音調査結果（環境基準関係）を表 3.2.13 に、調査地点を図 3.2.13 に示す。

環境基準の達成率については、昼間・夜間とも 100%には満たない状況となっている。

表 3.2.13 道路交通騒音調査結果（環境基準関係）（平成 26 年度）

道路名	調査地点		評価区間			時間帯	騒音 レベル L_{Aeq} (dB)	環境 基準 達成 戸数 (戸)	環境 基準 達成率 (%)	調査 区間内 全戸数 (戸)
			起点	終点	区間 延長 (km)					
一般国道155号	5	東海市 高横須賀町	東海市 高横須賀町	東海市 加木屋町	1.7	昼間	67	377	99.7	378
						夜間	63	377	99.7	

注：1. 昼間：6時から22時 夜間：22時から翌日の6時

2. 調査地点番号は、図 3.2.13 に対応している。

3. 各調査地点は、いずれも幹線交通を担う道路に近接していることから、「幹線交通を担う道路に近接する空間」の基準（昼間：70dB以下、夜間：65dB以下）が適用される。

なお、「幹線交通を担う道路」とは、高速自動車国道、一般国道、都道府県道及び市町村道（市町村道にあっては4車線以上の区間に限る）等を表し、「幹線交通を担う道路に近接する空間」とは、以下のように車線数の区分に応じて道路端からの距離によりその範囲を特定する。

- ・2車線以下の車線を有する道路 15メートル
- ・2車線を超える車線を有する道路 20メートル

出典：「平成26年度 交通騒音・振動調査結果について」（愛知県ホームページ）

イ 自動車騒音要請限度

事業実施想定区域周辺における、平成 26 年度の自動車騒音の要請限度調査結果を表 3.2.14 に、調査地点を図 3.2.13 に示す。

いずれの地点においても、要請限度以下の数値となっている。

表 3.2.14 自動車騒音要請限度調査結果（平成 26 年度）

道路名	調査地点		時間帯	騒音レベル L_{Aeq} (dB)	要請限度 (dB)	要請限度との比較 達成：○ 超過：×
一般国道155号	6	東海市高横須賀町 榊形1-1	昼間	67	75	○
			夜間	63	70	○
県道名古屋半田線	7	東海市加木屋町 一本木2-1	昼間	68	75	○
			夜間	65	70	○

注：1. 昼間：6時から22時 夜間：22時から翌日の6時

2. 調査地点番号は、図 3.2.13 に対応している。

出典：「平成 26 年度 交通騒音・振動調査結果について」（愛知県ホームページ）

3.2.3 振動に係る環境の状況

(1) 環境振動

事業実施想定区域周辺において、環境振動の調査は行われていない。

(2) 道路交通振動

ア 自動車振動要請限度

事業実施想定区域周辺における、平成 26 年度の自動車振動の要請限度調査結果を表 3.2.15 に、調査地点を図 3.2.13 に示す。

いずれの地点においても、要請限度以下の数値となっている。

表 3.2.15 自動車振動要請限度調査結果（平成 26 年度）

道路名	調査地点		時間帯	振動レベル L ₁₀ (dB)	要請限度 (dB)	要請限度との比較 達成：○ 超過：×
一般国道155号	6	東海市高横須賀町 榊形1-1	昼間	40	70	○
			夜間	35	65	○
県道名古屋半田線	7	東海市加木屋町 一本木2-1	昼間	44	65	○
			夜間	39	60	○

注：1. 昼間：7時から20時 夜間：20時から翌日の7時

2. 調査地点番号は、図 3.2.13 に対応している。

出典：「平成 26 年度 交通騒音・振動調査結果について」（愛知県ホームページ）

3.2.4 悪臭に係る環境の状況

事業実施想定区域周辺において、悪臭に関する調査は行われていない。

3.2.5 水象、水質、水底の底質その他の水に係る環境の状況

(1) 水象

ア 河川及び海域の状況

事業実施想定区域が位置する知多市及び東海市は、伊勢湾の最奥に位置し、名古屋港に面している。事業実施想定区域周辺における、伊勢湾に流入する主な河川は、2級河川「大田川」、2級河川「信濃川」等がある。

河川の分布状況を図 3.2.14 に示す。

また、知多半島では大河川等の大きな水源がなく、農業用水の確保のために多くのため池が作られており、東海市には43ヶ所、知多市には83ヶ所存在する。



図 3.2.14 事業実施想定区域周辺における河川

(2) 水質

ア 河川

事業実施想定区域周辺の公共用水域のうち、河川の水質調査は東海市及び知多市により実施されている。

生活環境項目、健康項目ともに各自治体で調査を実施している。

事業実施想定区域周辺における河川の水質調査地点を表 3.2.16 に、位置を図 3.2.15 に示す。

表 3.2.16 事業実施想定区域周辺における河川水質調査地点一覧

調査地点			生活環境項目	健康項目	実施者
渡内川	1	西番水橋	○	○	東海市
大田川	2	大宮橋	○	○	
	3	木田橋	○	○	
	4	加木屋橋	○	○	
横須賀新川	5	どんど中橋	○	○	
信濃川	6	信濃橋	○	○	知多市
	7	信濃橋	○	○	
	8	長曽橋	○	—	
美濃川	9	記念橋	○	○	
	10	古見橋	○	—	
日長川	11	東橋	○	—	

注：1. 調査地点番号は、図 3.2.15 に対応している。

2. 「○」は測定している項目、「—」は測定していない項目を示す。

出典：「平成 26 年版 東海市の環境概況」（東海市）

「知多市の環境 平成 26 年版」（知多市）



図 3.2.15 事業実施想定区域周辺における水質調査地点

(ア) 生活環境の保全に関する環境基準（生活環境項目）

事業実施想定区域周辺の生活環境項目の調査結果を表 3.2.17 に示す。

事業実施想定区域周辺の河川は、類型は区分されていない。

表 3.2.17 生活環境項目の河川調査結果（平成 26 年度）

調査地点 項目	渡内川	大田川			横須賀新川	信濃川	環境基準 (参考 C類型)
	1	2	3	4	5	6	
	西番水橋	大宮橋	木田橋	加木屋橋	どんど中橋	信濃橋	
pH	7.7	7.7	8.0	8.4	7.3	7.5	6.5以上8.5以下
DO (mg/L)	10	10.1	11.6	14.3	11.1	10.5	5mg/L以上
BOD (mg/L)	2.5	2.5	2.8	4.0	1.2	1.3	5mg/L以下
SS (mg/L)	3	7	6	6	12	13	50mg/L以下
大腸菌群数 (MPN/100mL)	61,000	25,000	71,000	241,000	17,000	11,000	規定なし

調査地点 項目	信濃川		美濃川		日長川	環境基準 (参考 C 類型)
	7	8	9	10	11	
	信濃橋	長曾橋	記念橋	古見橋	東橋	
pH	7.5	7.7	9.2	9.3	9.0	6.5以上8.5以下
DO (mg/L)	9.1	10	16	15	15	5mg/L以上
BOD (mg/L)	0.9	1.5	2.0	1.4	2.5	5mg/L以下
SS (mg/L)	8	6	5	2	3	50mg/L以下
大腸菌群数 (MPN/100mL)	—	—	—	—	—	規定なし

注：1. 表中の各項目の数値は、年間の平均値である。

2. BODについて、年間の環境基準の評価は日平均値の75%値で評価を行う。

3. 東海市測定 of No. 2は全8回の測定結果を平均した値である。その他は全4回の測定結果を平均した値である。

4. 「—」は測定を行っていないことを表す。

5. 調査地点番号は、図 3.2.15に対応している。

出典：東海市資料

知多市資料

(イ) 人の健康の保護に関する環境基準（健康項目）

事業実施想定区域周辺における健康項目の調査結果を表 3.2.18 に示す。

調査地点 1 ～ 4 の硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素を除く項目について、環境基準を達成している。

表 3.2.18 (1) 健康項目の水質調査結果（平成 26 年度）

単位：mg/L

項目 \ 調査地点	渡内川	大田川			横須賀新川	信濃川	環境基準
	1	2	3	4	5	6	
	西番水橋	大宮橋	木田橋	加木屋橋	どんどこ中橋	信濃橋	
カドミウム	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L以下
全シアン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	検出されないこと
鉛	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L以下
六価クロム	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.05mg/L以下
砒素	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L以下
総水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L以下
ふっ素	0.22	0.24	0.19	0.17	0.13	0.19	0.8mg/L以下
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	19.0	11.8	11.1	13.2	7.7	6.0	10mg/L以下

注：1. 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素は全2回の平均値である。その他の項目は、1回の測定値である。

2. 「検出されないこと」とは、定められた方法により測定した場合において、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。

3. 「ND」は検出されないことを表す。

4. 調査地点番号は、図 3.2.15に対応している。

出典：東海市資料

表 3.2.18 (2) 健康項目の水質調査結果（平成 26 年度）

単位：mg/L

項目	調査地点	信濃川	美濃川	環境基準
		7	9	
		信濃橋	記念橋	
カドミウム		<0.0003	<0.0003	0.003mg/L以下
全シアン		ND	ND	検出されないこと
鉛		<0.005	<0.005	0.01mg/L以下
六価クロム		<0.01	<0.01	0.05mg/L以下
砒素		<0.005	<0.005	0.01mg/L以下
総水銀		<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L以下
アルキル水銀		ND	ND	検出されないこと
P C B		ND	ND	検出されないこと
ジクロロメタン		<0.002	<0.002	0.02mg/L以下
四塩化炭素		<0.0002	<0.0002	0.002mg/L以下
1,2-ジクロロエタン		<0.0004	<0.0004	0.004mg/L以下
1,1-ジクロロエチレン		<0.002	<0.002	0.1mg/L以下
シス-1,2-ジクロロエチレン		<0.004	<0.004	0.04mg/L以下
1,1,1-トリクロロエタン		<0.0005	<0.0005	1mg/L以下
1,1,2-トリクロロエタン		<0.0006	<0.0006	0.006mg/L以下
トリクロロエチレン		<0.002	<0.002	0.03mg/L以下
テトラクロロエチレン		<0.0005	<0.0005	0.01mg/L以下
1,3-ジクロロプロペン		<0.0002	<0.0002	0.002mg/L以下
チウラム		<0.0006	<0.0006	0.006mg/L以下
シマジン		<0.0003	<0.0003	0.003mg/L以下
チオベンカルブ		<0.002	<0.002	0.02mg/L以下
ベンゼン		<0.001	<0.001	0.01mg/L以下
セレン		<0.002	<0.002	0.01mg/L以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素		1.0	0.71	10mg/L以下
ふっ素		0.33	0.42	0.8mg/L以下
ほう素		0.68	0.66	1mg/L以下
1,4-ジオキサン		<0.005	<0.005	0.05mg/L以下

注：1. 表中の各項目の数値は、全2回の平均値である。

2. 「検出されないこと」とは、定められた方法により測定した場合において、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。

3. 「ND」は検出されないことを表す。

4. 調査地点番号は、図 3.2.15に対応している。

出典：知多市資料

(ウ) ダイオキシン類

事業実施想定区域周辺の河川において、ダイオキシン類の調査は行われていない。

イ ため池

事業実施想定区域周辺におけるため池の水質調査は、東海市により実施されている。ため池の水質調査結果を表 3.2.19 に、位置を図 3.2.15 に示す。

表 3.2.19 事業実施想定区域周辺におけるため池水質調査結果（平成 26 年度）

調査地点 項目	ア 大田大池	イ 北池	ウ 中ノ池	エ 図賀奈池	オ 芦池	カ 愛敬池	キ 鎌ヶ谷池
pH	7.1	7.1	7.3	7.0	7.1	7.0	7.3
DO (mg/L)	9.0	6.5	8.8	8.5	7.8	5.9	9.7
COD (mg/L)	5.5	5.7	3.9	4.0	4.5	8.1	4.7
BOD (mg/L)	3.7	5.4	1.5	2.5	7.3	6.3	5.0

注：1. 表中の各項目の数値は、1回の測定値である。

2. 調査地点番号は、図 3.2.15に対応している。

出典：東海市資料

ウ 海域

事業実施想定区域の周辺海域における公共用水域の水質調査は、愛知県によりC類型水域の3地点で行われている。

事業実施想定区域周辺における海域の水質調査地点を表 3.2.20 に、位置を図 3.2.15 に示す。

表 3.2.20 事業実施想定区域周辺における海域水質調査地点一覧

項目 調査地点		水域・類型			生活環境 項目	健康 項目	ダイオキ シン類	調査 機関
		生活環境項目	全窒素・全磷	水生生物				
A	N-2	名古屋港（甲） C・ハ	伊勢湾（イ） IV・イ	伊勢湾 生物A・イ	○	○	○	愛知県
B	M-2				○	○	—	
C	M-3				○	○	—	

注：1. 調査地点Aは、環境基準点である。

2. 「○」は測定している項目、「—」は測定していない項目を示す。

3. 調査地点番号は、図 3.2.15に対応している。

出典：「水環境調査結果検索」（あいちの環境 愛知県ホームページ）

「ダイオキシン類調査結果」（愛知県ホームページ）

(ア) 生活環境の保全に関する環境基準（生活環境項目）

事業実施想定区域周辺の生活環境項目の調査結果を表 3.2.21 に示す。

水質汚濁の代表的な指標である化学的酸素要求量は、日平均値の 75%値でみると、すべての測定点で環境基準（C 類型 8mg/L 以下）を達成している。

富栄養化の指標である全窒素及び全リンのうち全窒素（年平均値）は、すべての測定点で環境基準（IV 類型 1mg/L 以下）を達成している。また、全リン（年平均値）については、すべての測定点で環境基準（IV 類型 0.09mg/L 以下）を達成している。

水生生物の保全に係る項目（年平均値）については、M-2 地点の全亜鉛を除き、環境基準を達成している。

表 3.2.21 (1) 生活環境項目の海域水質調査結果（名古屋港、平成 26 年度）

水域・類型	調査地点		水素イオン濃度 (pH)					溶存酸素量 (DO)				
			(－)					(mg/L)				
			最小	最大	平均	環境基準	m/n	最小	最大	平均	環境基準	m/n
名古屋港 (甲) C	A	N-2	7.8	8.7	8.2	7.0 以上 8.3 以下	4/24	4.2	12	8.3	2 以上	0/24
	B	M-2	7.6	8.4	8.1		1/24	5.4	14	8.6		0/24
	C	M-3	7.9	8.8	8.2		4/24	5.8	13	8.7		0/24

水域・類型	調査地点		化学的酸素要求量 (COD)							n-ヘキサン抽出物質 (油分等)				
			(mg/L)							(mg/L)				
			最小	最大	平均	75%値	環境基準	m/n	評価 (75%値)	最小	最大	平均	環境基準	m/n
名古屋港 (甲) C	A	N-2	1.4	5.3	3.2	3.6	8 以下	0/24	○	ND	ND	ND	—	-/2
	B	M-2	1.3	5.9	3.4	4.1		0/24	○	ND	ND	ND		-/2
	C	M-3	1.5	6.5	3.4	4.0		0/24	○	ND	ND	ND		-/2

注：1. 表中の値は、全層（表層及び中層）の年間平均値を示す。

2. 「ND」は定量下限値未達を示す。

3. 環境基準の欄の「—」は、環境基準の類型が指定されていないことを示す。

4. m/n の欄は、「環境基準に適合しない検体数/総検体数」を示す。また、「-/n」は環境基準が定められていないことを示す。

5. 評価の欄の「○」は環境基準を達成していることを示す。

6. 調査地点番号は、図 3.2.15 に対応している。

出典：「平成26年度公共用水域の水質調査結果」（あいちの環境 愛知県ホームページ）

表 3.2.21 (2) 生活環境項目の海域水質調査結果（伊勢湾、全窒素・全燐、平成 26 年度）

水域・類型	調査地点		全窒素 (T-N) (mg/L)						全燐 (T-P) (mg/L)					
			最小	最大	平均	環境基準	m/n	評価 (平均値)	最小	最大	平均	環境基準	m/n	評価 (平均値)
伊勢湾 (イ) IV	A	N-2	0.65	1.1	0.83	1 以下	2/12	○	0.041	0.19	0.086	0.09 以下	4/12	○
	B	M-2	0.75	1.2	0.87		1/12	○	0.054	0.17	0.085		4/12	○
	C	M-3	0.55	1.1	0.83		1/12	○	0.051	0.18	0.084		3/12	○

注：1. 表中の値は、全層（表層及び中層）の年間平均値を示す。

2. m/n の欄は、「環境基準に適合しない検体数/総検体数」を示す。

3. 評価の欄の「○」は環境基準を達成していることを示す。

4. 調査地点番号は、図 3.2.15 に対応している。

出典：「平成26年度公共用水域の水質調査結果」（あいちの環境 愛知県ホームページ）

表 3.2.21 (3) 生活環境項目の海域水質調査結果（伊勢湾、水生生物の生息状況、平成 26 年度）

水域・ 類型	調査 地点		全亜鉛 (mg/L)					
			最小	最大	平均	環境基準	m/n	評価 (平均値)
伊勢湾 生物 A	A	N-2	0.007	0.018	0.012	0.02 以下	0/12	○
	B	M-2	0.006	0.053	0.024		1/4	×
	C	M-3	0.006	0.018	0.013		0/4	○

水域・ 類型	調査 地点		ノニルフェノール (mg/L)					
			最小	最大	平均	環境基準	m/n	評価 (平均値)
伊勢湾 生物 A	A	N-2	<0.00006	<0.00006	<0.00006	0.001 以下	0/12	○
	B	M-2	<0.00006	<0.00006	<0.00006		0/4	○
	C	M-3	<0.00006	<0.00006	<0.00006		0/4	○

水域・ 類型	調査 地点		直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩 (LAS) (mg/L)					
			最小	最大	平均	環境基準	m/n	評価 (平均値)
伊勢湾 生物 A	A	N-2	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.01 以下	0/12	○
	B	M-2	<0.0006	<0.0006	<0.0006		0/4	○
	C	M-3	<0.0006	<0.0006	<0.0006		0/4	○

注：1. 表中の値は、全層（表層及び中層）の年間平均値を示す。

2. m/n の欄は、「環境基準に適合しない検体数/総検体数」を示す。

3. 評価の欄の「○」は環境基準を達成していること、「×」は環境基準を達成していないことを示す。

4. 調査地点番号は、図 3.2.15 に対応している。

出典：「平成26年度公共用水域の水質調査結果」（あいちの環境 愛知県ホームページ）

(イ) 人の健康の保護に関する環境基準（健康項目）

事業実施想定区域周辺における健康項目の調査結果を表 3.2.22 に示す。

すべての項目について環境基準を達成している。

表 3.2.22 健康項目の海域水質調査結果（平成 26 年度）

単位：mg/L

単位：mg/L

調査地点 項目	名古屋港（甲）						環境基準
	A		B		C		
	N-2		M-2		M-3		
	平均	m/n	平均	m/n	平均	m/n	
カドミウム	<0.0005	0/4	<0.0005	0/2	<0.0005	0/2	0.003mg/L以下
全シアン	ND	0/4	ND	0/2	ND	0/2	検出されないこと
鉛	<0.005	0/4	<0.005	0/2	<0.005	0/2	0.01mg/L以下
六価クロム	<0.01	0/4	<0.01	0/2	<0.01	0/2	0.05mg/L以下
砒素	<0.005	0/2	—	—	—	—	0.01mg/L以下
総水銀	<0.0005	0/4	<0.0005	0/2	<0.0005	0/2	0.0005mg/L以下
アルキル水銀	—	—	—	—	—	—	検出されないこと
P C B	ND	0/1	—	—	—	—	検出されないこと
ジクロロメタン	<0.002	0/4	—	—	—	—	0.02mg/L以下
四塩化炭素	<0.0002	0/4	—	—	—	—	0.002mg/L以下
1,2-ジクロロエタン	<0.0004	0/4	—	—	—	—	0.004mg/L以下
1,1-ジクロロエチレン	<0.01	0/4	—	—	—	—	0.1mg/L以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	<0.004	0/4	—	—	—	—	0.04mg/L以下
1,1,1-トリクロロエタン	<0.1	0/4	—	—	—	—	1mg/L以下
1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	0/4	—	—	—	—	0.006mg/L以下
トリクロロエチレン	<0.002	0/4	—	—	—	—	0.03mg/L以下
テトラクロロエチレン	<0.0005	0/4	—	—	—	—	0.01mg/L以下
1,3-ジクロロプロペン	<0.0002	0/4	—	—	—	—	0.002mg/L以下
チウラム	<0.0006	0/2	—	—	—	—	0.006mg/L以下
シマジン	<0.0003	0/2	—	—	—	—	0.003mg/L以下
チオベンカルブ	<0.002	0/2	—	—	—	—	0.02mg/L以下
ベンゼン	<0.001	0/4	—	—	—	—	0.01mg/L以下
セレン	<0.002	0/4	—	—	—	—	0.01mg/L以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	—	—	—	—	—	—	10mg/L以下
1,4-ジオキサン	<0.005	0/1	—	—	—	—	0.05mg/L以下

注：1. 基準値は年間平均値とする。ただし、全シアンに係る基準値については、最高値とする。

2. 「検出されないこと」とは、排水基準を定める省令第2条の規定に基づき環境大臣が定める方法により排出水の汚染状態を検定した場合において、その結果が当該検定方法の定量限界を下回ることをいう。

3. 「ND」は検出されないこと、「—」は測定を行っていないことを表す。

4. m/n の欄は、「環境基準に適合しない検体数/総検体数」を示す。

5. 調査地点番号は、図 3.2.15に対応している。

出典：「平成26年度公共用水域の水質調査結果」（あいちの環境 愛知県ホームページ）

(ウ) ダイオキシン類

事業実施想定区域周辺における海域でのダイオキシン類の調査は愛知県により調査地点 A (N-2) で行われている。平成 26 年度の調査結果は、0.16pg-TEQ/L で、環境基準（1 pg-TEQ/L 以下）に適合している。

エ 水底の底質

(ア) 水底の底質調査結果

事業実施想定区域周辺における水底の底質調査は、海域の水質調査地点（環境基準点）である A（N-2）において実施されており、調査結果は表 3.2.23 のとおりである。

表 3.2.23 水底の底質調査結果（平成 26 年度）

水域名				伊勢湾					
調査地点				A					
				N-2					
調査年月日				H26. 5. 7					
一般項目	気温		(℃)	16. 4	健康項目	カドミウム	(ppm)	0. 41	
	泥温		(℃)	16. 3		全シアン	(ppm)	<0. 5	
	臭気			無臭		鉛	(ppm)	28	
	強熱減量		(%)	7. 8		砒素	(ppm)	9. 7	
	含水率		(%)	63. 6		総水銀	(ppm)	0. 18	
	酸化還元電位		(mV)	11		アルキル水銀	(ppm)	<0. 01	
	粒度分布	礫 (2mm メッシュ以上)		(%)	<0. 1	PCB	(ppm)	0. 03	
		砂質 (63μm メッシュ以上)		(%)	0. 8	特殊項目	フェノール類	(ppm)	0. 5
		泥質		(%)	99. 2		銅	(ppm)	39
	pH			7. 3	亜鉛		(ppm)	190	
COD		(mg/g)	9. 3	総クロム	(ppm)		54		
全硫化物		(mg/g)	0. 32	全窒素	(ppm)		1700		
ヨウ素消費量		(mg/g)	12	全燐	(ppm)	570			

注：調査地点番号は、図 3.2.15に対応している。

出典：「平成 26 年度公共用水域の水質調査結果」（あいちの環境 愛知県ホームページ）

(イ) 水底の底質ダイオキシン類調査結果

事業実施想定区域周辺における海域の水底の底質におけるダイオキシン類の調査は愛知県により調査地点 A（N-2）で行われている。平成 26 年度の調査結果は、2.1pg-TEQ/L で、環境基準（150 pg-TEQ/L 以下）に適合している。

3.2.6 地形及び地質の状況

(1) 地形

事業実施想定区域周辺における地形の状況は図 3.2.16 のとおりである。

伊勢湾に繋がる主な河川、大田川及び信濃川の周辺等水辺沿いでは「谷底平野・氾濫平野」がみられ、その周囲が「丘陵地」や「段丘」となっている。

なお、事業実施想定区域は、「干拓地」が広がっている。

(2) 地質

事業実施想定区域周辺における地質の状況は図 3.2.17 のとおりである。

伊勢湾に繋がる主な河川、大田川及び信濃川の周辺等水辺沿いでは主に「砂・泥を主とする層」が見られ、その周囲が「泥・砂・礫の互層」となっている。

なお、事業実施想定区域は、「埋立地」である。

(3) 活断層

事業実施想定区域周辺における活断層の状況は図 3.2.18 のとおりである。

事業実施想定区域及びその周囲における主な周知の活断層等としては、“加木屋-成岩断層”が存在している。

活断層の存在の確かさを表す確実度は、“加木屋-成岩断層”は確実度 I（活断層の存在が確実）となっている。

活断層における活動が頻繁かどうかを判断するための目安となる活動度は、「愛知県活断層アトラス」（平成 9 年 9 月 愛知県）によると、“加木屋-成岩断層”で活動度 B となっている。

なお、活断層の活動度とは、活断層の活動の程度をいい、過去の平均変位速度（ s ）で表しており、1,000 年間あたりの変位量を、1 m と 0.1 m を境に、A、B、C の 3 ランクに区分する。

活断層の活動度の分類を表 3.2.24 に示す。

表 3.2.24 活断層の活動度の分類

活動度の分類	第四紀の平均変位速度 s （単位は $m/1000$ 年）		
	A	B	C
	$10 > s \geq 1$	$1 > s \geq 0.1$	$0.1 > s \geq 0.01$

出典：「愛知県活断層アトラス」（平成 9 年 9 月 愛知県）



図 3.2.16 事業実施想定区域周辺における地形の状況



図 3.2.17 事業実施想定区域周辺における地質の状況



図 3.2.18 事業実施想定区域周辺における活断層の状況

3.2.7 地盤、地下水及び土壌の状況

(1) 地盤

事業実施想定区域及びその周囲における地盤沈下の状況を表 3.2.25 に示す。

事業実施想定区域周辺として、知多地域で有効水準点 64 点のうち、沈下した水準点は 1 点（有効水準点の約 2 %）という状態であり、地盤沈下の目安とされている 1 年間又は 1 年当たりで 1 cm 以上沈下した水準点は観測されていない。

表 3.2.25 知多地域の地盤沈下の状況（平成 24 年）

（単位：点）

地域	測量 水準 点数	有効 水準 点数 (A)	沈下点数 (B)				割合 (B/A)	
			0.5cm 未満	0.5cm 以上 1cm 未満	1cm 以上 2cm 未満	2cm 以上		
知多	68	64	1	1	0	0	0	2%

注：知多地域の変動量は前回の観測が平成 20 年のため、4 年間の変動量を 1 年間に換算している。

出典：「平成 24 年 地盤沈下調査結果」（愛知県）

(2) 地下水

愛知県では、県内の全体的な地下水質の概況を把握するために、概況調査としてメッシュ調査（県内を約 5 km または約 10km メッシュに区切り毎年度新規地点を調査）と定点調査（同一地点における経年変化を調査）を実施している。

事業実施想定区域に近い地下水質調査地点として、平成 25 年度は知多市南粕谷本町及び東海市荒尾町においてメッシュ調査が行われている。

調査結果を表 3.2.26 に示す。

地下水質の調査結果として、すべての項目で環境基準を達成している。

表 3.2.26 地下水質調査結果（平成 25 年度）

調査地点		知多市南粕谷本町	東海市荒尾町	環境基準
使用用途		生活用水	その他	
不圧／被圧帯水層の別		不明	不明	
採水年月日		平成 25 年 10 月 29 日	平成 25 年 7 月 23 日	
カドミウム	mg/L	<0.0005	<0.0005	0.003 以下
全シアン	mg/L	<0.1	<0.1	検出されないこと
鉛	mg/L	<0.005	<0.005	0.01 以下
六価クロム	mg/L	<0.01	<0.01	0.05 以下
砒素	mg/L	<0.005	<0.005	0.01 以下
総水銀	mg/L	<0.0005	<0.0005	0.0005 以下
PCB	mg/L	<0.0005	<0.0005	検出されないこと
ジクロロメタン	mg/L	<0.002	<0.002	0.02 以下
四塩化炭素	mg/L	<0.0002	<0.0002	0.002 以下
塩化ビニルモノマー	mg/L	<0.0002	<0.0002	0.002 以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	<0.0004	0.004 以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.01	<0.01	0.1 以下
1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.004	<0.004	0.04 以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	<0.0005	1 以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	<0.0006	0.006 以下
トリクロロエチレン	mg/L	<0.002	<0.002	0.01 以下
テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0005	<0.0005	0.01 以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	<0.0002	0.002 以下
チウラム	mg/L	<0.0006	<0.0006	0.006 以下
シマジン	mg/L	<0.0003	<0.0003	0.003 以下
チオベンカルブ	mg/L	<0.002	<0.002	0.02 以下
ベンゼン	mg/L	<0.001	<0.001	0.01 以下
セレン	mg/L	<0.002	<0.002	0.01 以下
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	mg/L	3.5	<0.10	10 以下
ふっ素	mg/L	<0.08	0.09	0.8 以下
ほう素	mg/L	0.03	<0.02	1 以下
1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	<0.005	0.05 以下

出典：「地下水の水質調査結果」（あいちの環境 愛知県ホームページ）

(3) 土壌

事業実施想定区域及びその周辺における土壌の状況を図 3.2.19 に示す。

事業実施想定区域は、埋立地である。

事業実施想定区域周辺における土壌は、「台地及び低地土壌（農地土壌）」に属する「灰色低地土壌」、「細粒グライ土壌」や、「丘陵地地域の土壌（林地土壌）」に属する「乾性褐色森林土壌」等が多く分布しており、また知多市街地や東海市街地付近には「市街地・人口改変地・その他」も多く分布している。

ア 土地利用の履歴

事業実施想定区域が位置する知多市北浜町は、埋立地であり、昭和 58 年に旧知多市清掃センターが建設される以前には使用されていない。平成 15 年に現在の知多市清掃センターが完成したのちに旧知多市清掃センターは取り壊され、現在は大部分が駐車場として使用されている。



図 3.2.19 事業実施想定区域周辺における土壌の状況

(4) その他

事業実施想定区域において、旧知多市清掃センターの建設前の昭和 55 年 11 月に、ボーリング調査を実施している。調査地点を図 3.2.20 に、調査結果を図 3.2.21 に示す。

①、②地点とも、地表から深度 22～23m 程までは表土、粘土層、砂層、砂質シルト層で、N 値は 20 以下であるが、深度 23m 以降では、N 値が 50 以上の固結土となっている。

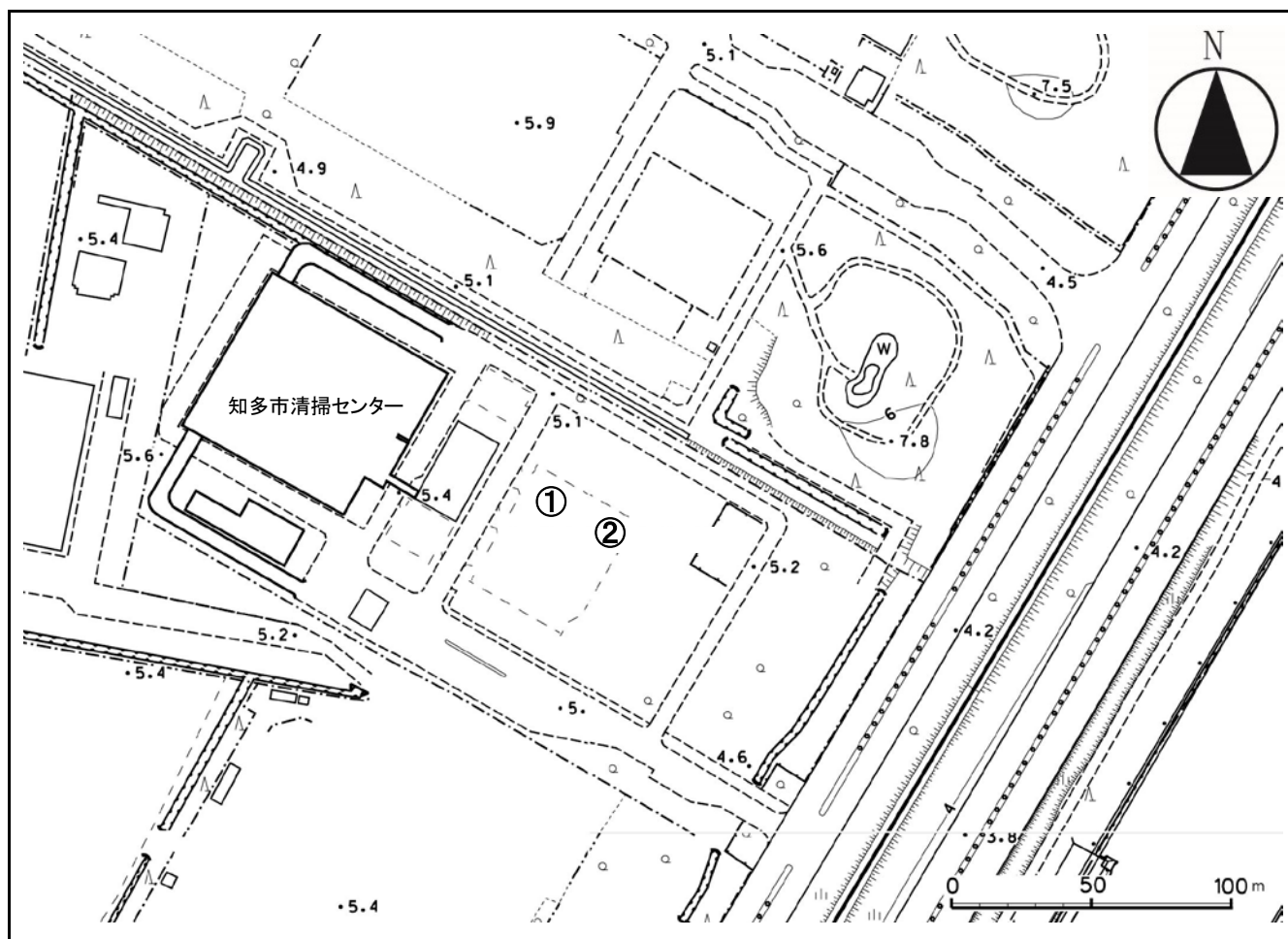


図 3.2.20 ボーリング調査地点

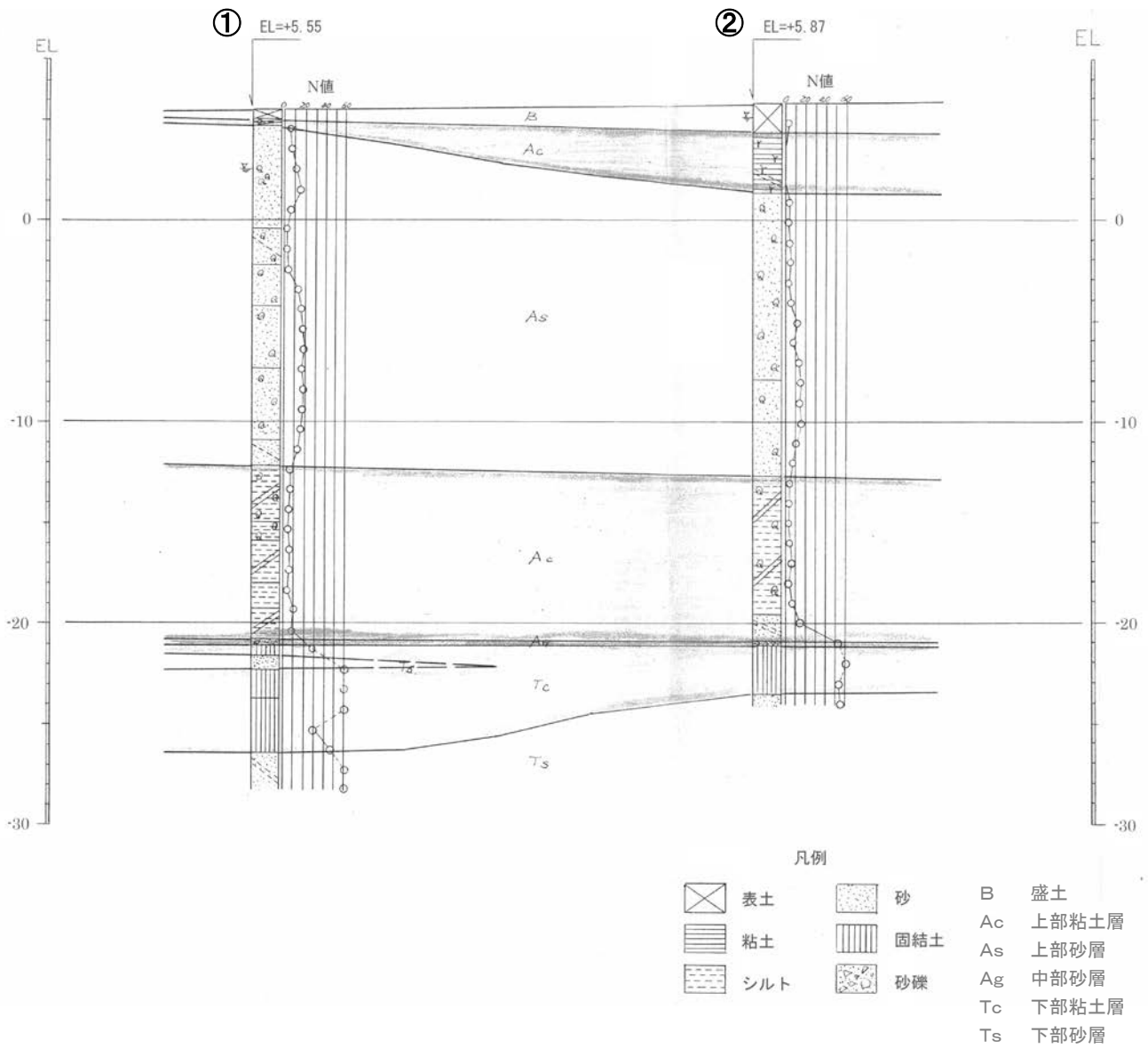


図 3.2.21 事業実施想定区域におけるボーリング調査結果